

教務だより

2016年5月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

合格への一步は、「自立」を達成すること

茗溪塾塾長 宇野雅春

ゴールデンウィークが終わると急に忙しい毎日が、重く感じられてきます。5月病といわれるものです。季節も初夏に向かうため、さわやかというよりも蒸し暑く体力も消耗しがちです。そこで疲れている者同士がトラブルを起こすのも無理からぬこと。さらに「受験」という重い課題が入ってくると、家族の中にもトラブルは生じます。

受験生本人は焦りから、「〇〇のために勉強ができない！」などと自分の不勉強をすべて周りのせいにします。親が少しでも口を挟んだら、「今やろうと思っていたのに…！もうやめた…」みたいなことにもなります。すべて悪いのは自分ではなく「あなた…」ということになります。これは「依存」という段階で、赤ちゃんのレベルです。

依存から自立していく流れは、でもそう簡単なことではありません。本当に自立している人なら、部活の試合で負けても、コンクールなどで入賞できなくても、指導者のせいにしたりはしません。確かに指導者のレベルによって、相当規定されてくるのは、否定できませんが、試合に負けた時に、自分の至らなさを悔やむのではなく、指導者が悪いと考える傾向は時代が進むにつれて蔓延してきているといえなくもありません。

自分にとっての財産は、自分が成長することです。良き指導者とは、自分を伸ばしてくれる指導者だと思うのです。そこでも、周りとのせめぎあいの中で自分の弱点を見つけその克服を第一義に考える生徒が一番伸びてくると思うのです。一番大切なことは自立すること。自分の「受験」を自分のこととして認識できるということです。

中学受験、高校受験、大学受験のそれぞれにおいて、最重要課題は「自立」といってよいと思います。中学受験は年齢的に難しいのですが、受験自体がその生徒のためのものであるということと、その結果を引き受けていくのは本人しかいないということで考えると、受験を通して「自立」を勝ち取っていく必要があるのです。そこでは、受験は本人を鍛える最良の体験になるとも考えられます。

高校受験になると第2次反抗期もありさらに複雑です。友達関係も大きく影響しますし、内申点というより自立したコミュニケーション能力も要求されます。

部活や学校行事、定期試験など多忙な日々を自己管理しつつ、様々な人間関係もこなしていく中で勉強時間もとる必要があります。自立していなければ全く空回りするはずです。

大学受験は思春期の真只中、もはや自分以外に自分に責任のとれない時期に来ています。自分の将来を人にゆだねてしまうことでの後悔は必ずその後の人生に影響します。

「合格」に必要なのは自立！

自立に必要なことは、3つ。①「主体的に取り組む」②「目標を持つ」③「一番大切なことから取り組む」です。このテーマを受験学年の夏休み前に理解し、自分のものにすること。それが合格への必須条件だと思います。

季節は夏に向かいます。疲労感で苛立つ前に、「自立」への自分の課題を確認してみませんか？受験のキーワードは「変わる！」です。そこから何かが始まります。